

熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村別データベース(玉名市)

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
1	玉名市	梅林	梅林天満宮 流鎗馬	ばいりんてんまんぐう やぶさめ	玉名市無形民俗文化財 昭和45年6月29日	11月25日		玉名市の梅林天満宮は『国郡一統志』によれば承平6年(936)の勧請とあり、地元では「太宰府天満宮の第一分霊社」として崇敬されている。「梅林天満宮流鎗馬」は例年11月25日に行われる梅林天満宮例大祭に際し、神社南側の馬場において奉納される行事であり「ヤクサンドン」と呼ばれ親しまれる。その起源については定かではないが、寛永18年(1641)の社領目録(梅林天満宮蔵)に「流鎗馬田」の記載があり近世前期には既に行われていたことが窺われるなど、古い伝統を有する行事。一連の行事は23日に行われる「精進小屋入り」の神事に始まる。翌24日に菊池川の小島河原で「汐取り」、小島神社で神事と神楽奉納、梅林天満宮前の馬場を数回試定する「馬場とおし」が行われる。25日午前中に例大祭が行われ、夕刻より流鎗馬が奉納。この日「精進小屋」を焚した一行は「支度屋」と呼ばれる下川氏宅に入り、神事が行われる。その後、木葉川で「汐取り」を経て、馬場へと向かい楼門の前で神事を経て流鎗馬が始まる。馬場には椎の木の厚板で作られたたが3カ所に用意、3回にわたり計9本の矢が射られる。的の一部は観客が持ち帰ることが許されており、かつては競って奪い合っていたという。流鎗馬が終わると精進小屋へ戻り、神事を経て精進上げとなる。26日には、次の「節頭」を決める「おみくじ(何い)がおこなわれ、次の節頭が決まると節頭渡しの行事が行われ、一連の行事が締めくくられる。流鎗馬は、梅林地区内の津留、安楽寺、下の3地区の氏子が輪番で奉納、さらにそれぞれの区(小字)単位で担当している。流鎗馬の費用は、地区で所有する神田からの費用が充てられ宝暦年間の検地帳にも津留、安楽寺、下の3村に「流鎗馬田」等の記載がありこれを裏付ける。かつては抽選で「節頭」が選ばれ担当していたが、近年では輪番制となり地区ごとに装束などが多少異なっている。梅林天満宮流鎗馬は、かつては広く神社祭礼等に奉納されていた流鎗馬の形態が理解できる行事として貴重である。【熊本県ありのままHP2005】「流鎗馬」は通称「ヤクサンドン」といわれ、例年11月25日夕刻に氏子の廻り行事によって行われる奉納行事です。梅林天満宮蔵の版本によれば、すでに江戸時代初期には行われており、少なくとも室町時代末期には今のような原形が出来上がったと考えられます。昔は、馬を持つほどの武士しか出演できず、高度な技術が必要とする高尚で勇壮な競技でありましたが、神社は大祭の神事として積極的に推進し、明治以降は弓馬の道も氏子の趣味として継承、奉納行事となりました。特に、奉納時の乗り手の所作は、勇壮活発、かつ壮重まさに鎌倉武士の古格をそのまま伝え、伝統の香り深いものがあります。【玉名市HP/2005】公開日夕刻に氏子の廻り行事によって演出される奉納行事。通称「ヤクサンドン」。【2001】		玉名市教育委員会 社会教育課 〒865-0051玉名市 繁根木88-1 0968-75-1312		
2	玉名市	築地萩ノ尾	築地の花棒踊り		玉名市無形民俗文化財 昭和47年8月10日		不定	この踊りは、江戸時代後期、築地の萩尾地区に伝えられたもので、浮田松四郎という武士から平民に降り余生を送っていた者が、素浪人から小笠原真影両流の護身術と棒術を授かり、その秘法が3人の百姓に伝えられ、村中に広まったといわれています。踊りは、扮装が極めて質素で内容が武術から転化したものであるため、拍子木のほかに楽器を用いず、終始土気がみなぎり男性的な勇壮さ、郷土芸能としての優秀さ、流派的なものを特色としています。【玉名市HP/2005】江戸時代後期、築地の萩尾地区に伝えられたもの。【2001】《演目》伊勢首頭、棒打ち。《構成と衣装》踊りは大人15人、子供7人、唄は女性21人。大人は花棒、子供は木太刀を持つ。踊りの衣装は黒筒袖の上衣、黒袴、白鉢巻き、白襪、白足袋。【1991】		玉名市文化課 0968-57-4429		

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
3	玉名市	大浜町907	大浜外嶋住吉神社年 紀祭米引き行事・御神 幸行事		玉名市無形民俗文 化財 平成4年6月 10日	20年に1度 の年祀祭	外嶋宮	大浜外嶋宮住吉神社は、延久元年(1069)創建で、約一千年の 間大浜町の産土神として人々の尊崇を集めた宮です。この神社 に伝わる年祀祭は10～20年毎に実施され、なかでも米引き行事 と、御神幸行事が顕著です。米引き行事は神社への財物の寄進 のためのもので、大八車に俵を積み氏子総出で綱を引き、服装 音頭に特色があります。御神幸行事は、御旅所までの渡御と海 上渡御とがあり、御座船を曳航する権佐馬船上での采振り、剣權 踊りは独特なものがあります。全ての行事が大規模で、江戸中後 期、大坂へ肥後米を積み出す高瀬港の外港として栄えた大浜町 の往時を偲ばせるものがあります。【玉名市HP/2005】		玉名市文化課 Tel : 0968-57-4429		
4	玉名市	築地萩ノ尾	神入りの楽			10月15日						
5	玉名市	繁根本	岩戸神楽	いわとかぐら		11月3日	繁根本八幡宮	玉名市内の各所に神楽が伝承されてきたが、その保持者が連合 して保存会を結成し行っている。【1985】	【伝統芸 能】 神楽			
6	玉名市	上立願寺、下立願寺	立願寺の神楽	りゆうがんじのかぐら		10月15日 11月3日 11月15日	疋野神社 玉名市文化センター 立願寺公園	《演目と構成》初剣(1人舞)、禰(2人舞)、参米(1人舞)、シテ(2人 舞)、二剣(2人舞)、剣弓(2人舞)、弓(2人舞)、四剣(4人舞)、八剣(8 人舞)、歌神楽(1人舞)、問答(2人舞)、地堅(1人舞)《沿革》もとは 上、下立願寺一緒に舞っていたが、明治30年代に分かれて行う ようになり、神楽の道具、稽古など別々である。疋野神社の 祭りでは上区と下区が1曲交替で舞うが、どの曲を舞うかは年 によって変わる。【1991】	【伝統芸 能】 神楽			
7	玉名市	玉名市富尾	富尾の神楽	とびのおのかぐら		10月15日 11月3日	富尾菅原神社 玉名市文化センター	《演目と構成》幣舞(1人舞)、一剣(1人舞)、二剣一探り物が一(2 人舞)、二剣一探り物が幣一(2人舞)、四剣(4人舞)、弓(2人舞)、禰 舞(1人舞)、歌神楽(1人舞)、五段(2人舞)、[中絶曲: 剣弓]《特色》 神楽の舞われる順番は固定的なものではなく、最初に新参が幣 舞を舞い、あとは一剣、二剣をくり返し舞うことが多い。【1991】	【伝統芸 能】 神楽	玉名市教育委員会文化 課 0968-57-4429 FAX0968-57-4442 玉名市岱明町野口2129		
8	玉名市	玉名市溝上	溝上の神楽			9月15日 11月3日	七社大明神 玉名市文化センター	《演目と構成》初剣(1人舞)、シテ(2人舞)、二剣(2人舞)、弓(2人舞)、 禰(1人舞)、歌舞(1人舞)、ジカメ(1人舞)、鬼(2人舞)。《特 色》番付は本当は33番で組むのが本当たと言うが、現在は13番 ぐらいしか演じない。何番舞うかはその時によって違うが、奇数の 番付になるようにする。この神楽は明治20年に石貴から習ってき たものという。【1991】	【伝統芸 能】 神楽	玉名市教育委員会文化 課 0968-57-4429 FAX0968-57-4442 玉名市岱明町野口2129		
9	玉名市	玉名市石貴	石貴の神楽			10月15日 11月3日	石貴熊野座神社 玉名市文化センター	《演目と構成》初剣(1人舞)、二剣(2人舞)、禰(1人舞)、禰(2人舞)、 御幣(2人舞)、四剣(4人舞)、弓(2人舞)、歌(1人舞)、地堅(1人 舞)、語段(2人舞)。《特色》明治20年頃、富尾から習ったという。 【1991】	【伝統芸 能】 神楽	玉名市教育委員会文化 課 0968-57-4429 FAX0968-57-4442 玉名市岱明町野口2129		
10	玉名市	玉名市三ツ川川床	川床の神楽			10月15日 11月3日	川床少名彦命神 社 玉名市文化センター	《演目と構成》初剣(1人舞)、御幣(2人舞)、剣舞(2人舞)、地固(1人 舞)、上矢(1人舞)、歌舞(1人舞)、禰(1人舞)、神主(1人舞)、ごだん (2人舞)。《特色》明治の始めに富尾から習ったという。【1991】	【伝統芸 能】 神楽	玉名市教育委員会文化 課 0968-57-4429 FAX0968-57-4442 玉名市岱明町野口2129		
11	玉名市	玉名市滑石	滑石の神楽	なめいしのかぐら		1月1日 9月17日 10月17日 11月3日	滑石諏訪神社 滑石諏訪神社 滑石諏訪神社 玉名市文化センター	《演目と構成》御幣、剣舞、四剣、御幣と禰、弓舞、歌神楽、語段。 《特色》もとは33番演じたというが、今は5～6番しか舞わない。明 治19年に富尾から習ったという。【1991】	【伝統芸 能】 神楽	玉名市教育委員会文化 課 0968-57-4429 FAX0968-57-4442 玉名市岱明町野口2129		
12	玉名市	玉名市三ツ川福山	福山の神楽			11月3日 11月9日	玉名市文化センター 福山白山姫神社	《演目と構成》初剣(1人舞)、二剣(2人舞)、シテ(2人舞)、剣弓(2人 舞)、四剣(4人舞)、うわや(2人舞)、禰(1人舞)、歌舞(1人舞)、地方 (1人舞)、前神楽(1人舞)、語段(2人舞)【1991】	【伝統芸 能】 神楽	玉名市教育委員会文化 課 0968-57-4429 FAX0968-57-4442 玉名市岱明町野口2129		

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
13	玉名市	玉名市山部田	山部田の神楽			1月7日 11月3日 11月15日	山部田熊野座神社 玉名市文化センター 山部田熊野座神社	《演目と構成》初剣(1人舞)、二剣(2人舞)、シデ(2人舞)、四剣(4人舞)、櫛(1人舞)、弓(2人舞)、弓剣(2人舞)、歌舞(1人舞)、小神楽(1人舞)、神主の前神楽(1人舞)、御談問答(2人舞)、地方(2人舞)。《特色》明治の初めに玉名の神職から習ったものだという。【1991】	【伝統芸能】 神楽		玉名市教育委員会文化課 0968-57-4429 FAX0968-57-4442 玉名市岱明町野口2129	
14	玉名市	玉名市玉名	元玉名の神楽			10月15日 11月3日	玉名大神宮 玉名市文化センター	《演目と構成》初剣(1人舞)、シデ(2人舞)、二剣(1人舞)、四剣(4人舞)、剣弓(2人舞)、うわや(2人舞)、櫛(1人舞)、歌舞(1人舞)、地固(1人舞)、鬼の前神楽(1人舞)、鬼-吾段、二天問答とも言う(2人舞)。《沿革》江戸時代には内田郷の神職が集まって行っていたものを明治初めに氏子に教えたものだといわれている。【1991】	【伝統芸能】 神楽		玉名市教育委員会文化課 玉名市岱明町野口2129 0968-57-4429 FAX0968-57-4442	
15	玉名市	玉名市築地四十九	四十九池神社奉納楽			10月15日	四十九池神社	《演目》本楽、高瀬楽、テンネントツツ、神楽(しんがく)、神入(しんにゅう)、神入くずし、きつね楽。《特色》太鼓、笛、三味線で構成される。祭りの日は祭りの宿(当番の家)から、最初に旧庄屋宅へ行き、5分程度楽を演じる。そこから神社に向かい、一の鳥居から二の鳥居まで1時間程度かけて、本楽、高瀬楽を演じる。二の鳥居を潜る時に花火が上がる。そこから二手にわかれる。一方は神入くずしを演じ拜殿のまわりを回り、もう一方は神入を奏する。そのあと一緒に境内の楽小屋に入り、1時間程度楽を演じる。終わって帰るときにはきつね楽を演じる。【1991】	祭礼 (神社行事)		玉名市教育委員会文化課 0968-57-4429 FAX0968-57-4442 玉名市岱明町野口2129	
16	玉名市	玉名市伊倉	伊倉北・南八幡宮練り嫁			4月15日 10月15日	伊倉南八幡宮 伊倉北八幡宮	伊倉北、伊倉南の両八幡宮で14日、五穀豊穣を願う春の大祭があり、晴れ着姿の女性らによる「練り嫁行列」が沿道を彩った。練り嫁は、作物を荒らす怪物を鎮めるため、未婚女性を人身御供として差し出したという故事が由来とされている。華やかに着飾った女性や稚児ら約300人は午後0時半ごろ、近くの寺を出発。大勢の見物人が見守る中、神社までの約800mを太鼓や笛の音に合わせて練り歩いた。両八幡宮は道を隔てて向い合せに建つ。709年の創建時は一つだったが、鎌倉時代に別々になったと伝えられる。【2013.4.16熊日】 《別称》ネロミヤ。《特色》伊倉南八幡宮と北八幡宮は向かい合っている。そのそれぞれの神社で同じ内容の祭りが行われており、行列は南北それぞれの神社に行く。行列の順序は獅子田楽を先頭に旗、太鼓、笛、稚児、練り嫁、村人の順で続く。練り嫁は未婚の女性で、花嫁の衣装を着たが、現在は子供になっている。【1991】			玉名市教育委員会文化課 玉名市岱明町野口2129 0968-57-4429 FAX0968-57-4442	
17	玉名市	玉名市伊倉	伊倉北・南八幡宮節頭馬追い			4月15日 10月15日	伊倉南八幡宮 伊倉北八幡宮	《特色》行列は南北それぞれの節頭の家から町内を通り、南北それぞれの神社に行く。親節頭、子節頭それぞれが馬に乗り、それに中間、柄杓持ち、奉行、宵武士、守り刀持ちが随行する。【1991】			玉名市教育委員会文化課 0968-57-4429 FAX0968-57-4442 玉名市岱明町野口2129	
18	玉名市	玉名市繁根木	繁根木八幡宮節頭歌			10月28日 10月29日	繁根木八幡宮	繁根木八幡宮秋季大祭で法被姿の男性らが五穀豊穣に感謝して威勢よく奉納。今年(は上野口と下前原の2地区が節頭。稚児を乗せた馬を引いた仲間(ちゅうげん)と呼ばれる男衆たちが、勢いよく参道の階段を駆け上がった神楽前に登場。「神の恵みのありがたや アーヨイトコヨイ」と独特の節回しで歌い上げた。玉名第一保育所の園児約40人による子ども節頭の奉納や神事、七五三参拝なども。【2012.10.30熊日】 《特色》旧坂下郷(玉名町、築山、滑石と岱明町の大野、睦合、高道、鍋の7地区)が年番で節頭を受ける。その年の節頭地区では、3人の節頭稚児を選ぶ。祭りの日は節頭稚児それぞれが馬に乗り、仲間4人、シャク振り2人が組みになり繁根木八幡宮まで行く。【1991】			玉名市教育委員会文化課 0968-57-4429 FAX0968-57-4442 玉名市岱明町野口2129	
19	玉名市	横島町栗尾	栗ノ尾神楽			7月2日 8月2日 10月15日	栗ノ尾島崎神社	《演目》一人舞、二人舞、四人舞、剣弓、櫛、鬼神楽(10月15日のみ)。【1991】	【伝統芸能】 神楽			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
20	玉名市	大浜町	外嶋宮年紀祭			20年に1度	外嶋宮	《別称》ホーランエンヤ祭り。《次第》まず、祭りの4日位前に、祭りの神幸行列で通る道筋に砂を撒いて清める砂引き行事がある。その2～3日後に2日間米引き行事がある。これは部落毎に奉納する米を披露するもので、梵天を振りながら、米俵を積んだ台八車を引き回すものである。祭りの当日は神幸行列が行われる。神社での神事後、御旅所まで歩いていく。御旅所で神事後、三体の御神体をそれぞれ船に乗せ、その船をそれぞれ3隻の權伝馬船で大浜橋まで曳く。權伝馬船は4人で漕ぐが舟の前で「ホーランエンヤ」のかけ声に合わせて槳振り踊りと剣楯踊りが演じられる。大浜大橋からお宮までまた歩いて戻る。【1991】				
21	玉名市	岱明町上鍋	上鍋立山神楽			1月2日 4月8日 9月15日 10月28日 10月29日	上鍋天満宮 立山稻荷神社 上鍋天満宮 繁根木天満宮 繁根木天満宮	《演目および構成》剣(1人舞)、シデ(2人舞)、剣(2人舞)、シデ(1人舞)、剣(4人舞)、シデ(1人舞)、弓(1人舞)、剣(2人舞)、シデ(1人舞)、四方(2人舞)、唱(1人舞)、剣(2人舞)、地方(2人舞)、五段(2人舞)。楽はすべて笛、太鼓。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
22	玉名市	岱明町高道	高道上区神楽			4月25日 7月25日 9月25日	高道上区天満宮	《演目および構成》剣(1人舞)、シデ(2人舞)、剣(2人舞)、シデ(1人舞)、剣(4人舞)、シデ(1人舞)、弓(2人舞)、剣(2人舞)、剣弓(2人舞)、櫛(2人舞)、剣(2人舞)、シデ(1人舞)、四方(2人舞)、唱(1人舞)、剣(2人舞)、地方(2人舞)、五段(2人舞)。楽はすべて笛、太鼓。《由来》今から80年～90年前に玉名市の立願寺から伝わったという。【1991】	【伝統芸能】 神楽	高道上区 神楽保存会		
23	玉名市	岱明町高道	高道中区神楽			1月2日 7月25日 9月25日	高道中区天満宮	《演目および構成》剣(1人舞)、シデ(2人舞)、剣(2人舞)、シデ(1人舞)、剣(4人舞)、シデ(1人舞)、弓(2人舞)、剣(2人舞)、剣弓(2人舞)、櫛(2人舞)、剣(2人舞)、シデ(1人舞)、四方(2人舞)、唱(1人舞)、剣(2人舞)、地方(2人舞)、五段(2人舞)。楽はすべて笛、太鼓。《由来》明治初年高道上区から伝承されたという。【1991】	【伝統芸能】 神楽	高道中区 神楽保存会		
24	玉名市	岱明町大野下	大野下の奴踊り			7月15日	大野下八満宮 綿津見神社	《構成および衣装》構成は踊り30人程度。楽器が笛、大太鼓、小太鼓。衣装は法被に奴笠を被り、手甲、脚絆を巻き、藁草履を履く。腰には瓢箪を下げる。《由来》慶長年間、加藤清正によって新塘の干拓が行われたが用水設備が不十分で、たびたび旱魃に見舞われた。その当時、雨乞いの踊りとしてこの芸能が始められたという。【1991】	【伝統芸能】 風流芸			
25	玉名市	横島町外平区	外平神楽			7月 10月15日	外平菅原神社	《演目》初剣、二剣、三剣、櫛、幣、四剣、剣弓、上矢、歌、鬼、地固、八剣。《沿革》明治19年に玉名市の疋野神社から伝わったという。【1991】	【伝統芸能】 神楽	外平神楽保 存会	横島町教育委員会 0968-84-2122 新玉名市(旧岱明町) 文化課 0968-57-4429	
26	玉名市	横島町九番	九番神楽			10月15日	九番龍神宮	《演目》初剣、二人舞い、四人舞い、櫛、して、剣弓、四剣、うわや、歌、地固、鬼神楽。《沿革》明治25年、長洲町の四王子宮から習ってきたという。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
27	玉名市	横島町	横島濁いない節			不定	特に決まっていない	《特色》濁いない節は、元は干拓作業で歌われた労作唄で、干拓作業を模した踊りをつけたものが横島濁いない節である。現在、青年団によって演じられている。【1991】				
28	玉名市	天水町部田見	八社宮の神楽			12月13日	八社宮	《演目》奉剣、櫛、折敷、二剣、剣弓、四剣、神撰歌、長幣、双弓、四方拝、参座。【1991】	【伝統芸能】 神楽			
29	玉名市	天水町立花	立花神社の神楽			10月15日	立花神社	記述なし【1991】	【伝統芸能】 神楽	立花神楽伝		
30	玉名市	天水町小天	小天神社の神楽			10月15日	小天神社	《演目》三座、奉剣、櫛、剣弓、二剣、長幣、神撰歌、四剣、二天、地固、四方拝。【1991】	【伝統芸能】 神楽			

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
31	玉名市	川島・小尻野・小島地区	豊水神楽			11月	豊水小学校	豊水地区の3地区に伝わる神楽。地元の豊水まつりで川島、小野尻、小島の地区ごとに狩衣姿に烏帽子をかぶった子どもたちが、鈴や刀を手に舞う。	【伝統芸能】神楽			
32	玉名市	天水町小天地区	小天小唄					小天地区で戦後盛んに歌われていた。2006年春に小唄の歌詞を書いた書が見つかり復活。小天小唄は、町の名所や特産を織り込み、地区の祭りなどで歌われていたが、次第に歌われなくなっていた。【2006.11.18.熊日】		小天町童謡会		
33	玉名市	滑石地区	シシ食い祭り	ししくいまつり		1月17日	滑石諏訪神社	滑石諏訪神社の祭神・健御名方大神(たけみなかたのみこと)が、豊作物を食い荒らすイノシシを退治、その肉を農民に分け与えたという伝説に由来し、千年以上の伝統を持つという。イノシシを祭った神社拜殿で神事後、年間行事の世話役を引き継ぐ「節頭渡し」が行われる。この後、直会があり、イノシシ肉とゴボウの煮付け料理が地区住民に振る舞われる。【2007.1.18.熊日】				五穀豊穡健康
34	玉名市	立願寺	射的の神事	しゃてきしんじ		10月15日	疋野神社秋季大祭	宮司や氏子、地元の区長らが、拜殿から約20メートル離れた境内に掲げられた直径約2メートルの的を狙い弓を引く。矢や的の切れ端は災難よけなどのご利益があるとされ、矢が的に当たって地面に落ちると、集まった参拝客らが奪い合う。【2006.10.17.熊日】				
35	玉名市	天水町小天地区	火の神祭り	ひのかみまつり		10月15日夜	小天天子宮	8世紀初め、当時の国司が疫病を治めようと、未明に三度、火渡りを行ったと言う故事による。境内では午後7時半頃から、地元で伐採した松で5メートル四方の櫓を組んで点火。ほぼ燃え尽きた11時過ぎ、ふんどし姿の若者約50人が、長さ10メートルの竹に薬を巻き付けた3本の「火押し竹」で、灰を拜殿近くまで押し広げる。ラッパや太鼓がこぎざかに鳴り響く中、神前くじで選ばれた天水中児童2人が狩衣姿で登場。はだして3回ずつ一気に駆け抜ける。火渡りを終えた2人は、出世魚のスズキで足を冷やす。【2006.10.17.熊日】				
36	玉名市	伊倉地区	伊倉仁〇加	いくらにわか		10月20日	玉南中学校	江戸時代から伝わる郷土芸能「伊倉仁〇加」と伝えていこうと保存会が地元の小中学生にわかへの指導を続けている。保存会によると、水運で栄えた伊倉地区には江戸中期に上方からにわか伝った。伊倉弁で、日々の光景に風刺や洒落を加えた即興寸劇として発展。戦前は、祭りの時に町内8か所に舞台が立つほどだったという。【2012.10.19.熊日】				
37	玉名市	岱明町睦合	チョマさん音頭	ちよまさんおんど		11月30日	睦合小体育館	地元の伝説のキツネ、チョマさんをテーマにした音頭と踊りが完成、小学校体育館で開かれた校区秋祭りで発表された。チョマさんは同校区イテング山にいたといわれる白いキツネ。いたずらもするが五穀豊穡の守り神とした親しまれ、現在でも祠が残っている。音頭は、チョマさんを校区の象徴に郷土芸能を創作しようと、市の地域づくり事業「玉名21の星」の助成で組織した校区まちづくり委員会が、昨年制作に取り組んでいた。音頭の作詞、作曲、振付は校区内で募集。「小岱山に朝日を受けりや/チョマさんおはようコンコン/今年も豊年満作だ」などの歌詞で、軽快なメロディーと踊りも完成した。秋祭りでは、睦合小3年の40人が白いキツネのお面と尻尾を付けて踊りを披露。【2008.12.1.熊日】				
38	玉名市		しらさぎばやし	しらさぎばやし		不定期	老人ホーム	高瀬踊りの会(5人)は、地元で伝わる「しらさぎばやし」の踊りを老人ホームで披露し、お年寄りに喜ばれている。しらさぎばやしは、約1300年前に疋野長者が湯あみで傷を治すシラサギを見て玉名温泉を発見したという伝説にちなんで踊り。昭和40年代に婦人会が春祭りで踊ったのが始まりとされる。曲は当時のテープが残っていたが、踊りはわからなくなっていた。十数年前に市内の女性で結成したメンバーが10年前に踊りを新たに考え復活させた。和服の袖を振ってシラサギが羽ばたく様子を表現するなど工夫したとのこと。同会の3人が玉名市築地の岱山苑を訪れ、入所者ら約80人に披露。【2013.5.5.毎日】				